



牛プロジェクトの生徒達は皆、個性豊かで、自ら考えて行動できます。そのおかげで、どんな活動でもさまざまな意見が出るので活気があります。将来はそれぞれが持っている個性を活かせるようになってほしいです。生徒達は牛が大好きなので、そのピュアな気持ちを大人になっても忘れないでほしいです。(佐々木 真彩先生)



大きな動物を飼育してみたいと思い、牛プロを選びました。プロジェクト活動の一環として、地域の方々を招待して搾乳体験などのヒューマンサービスを実施しました。そこでは、搾乳作業や牛プロの説明をしました。将来は動物園の飼育員や観光牧場で働きたいです。牛プロを通じてより一層将来の夢への想いが強くなりました。(3年生、部長・山本 桜姫さん)



幼稚園の遠足で牧場に行ったことで牛が大好きになりました。それがきっかけで牛プロに入部しました。共進会でリードマンを務めさせていただきました。当日は牛が大暴れしてしまいましたが、今となっては良い思い出です。牛が大好きなので、将来は酪農関係の研究牧場などの仕事に就きたいと思っています。(3年生、塩原 菜奈さん)



生徒が主体となって酪農教育ファームを実施しています。地域の住民に向けて畜産の素晴らしさを伝えています。過去の酪農教育ファームでは約80名が参加してくれました。



実家が酪農家ということもあり、酪農を学べる相原高校に入学しました。これまで実家の仕事を手伝っていなかったのに、牛舎の作業がすごく大変だと身にしました。牛プロでは神奈川県内の酪農家さんの牛を共進会で引かせてもらいグランドチャンピオンを獲得しました。とても緊張しましたが、また機会があればチャレンジしたいです。(3年生、西山 和輝さん)



相原高校は、リニア中央新幹線建設と再開発から2019年4月より現在の校舎に移転しました。牛舎も新設し、最小規模の2頭シングルタンデムパーラーを導入するなど最新の機器が多く揃っています。

概要

神奈川県立相原高等学校 畜産部 牛プロジェクト
(1年生10名、2年生9名、3年生7名、計26名)
フリーストール牛舎(総頭数17頭、搾乳牛6頭)
活動内容: 総勢26名で活動する相原高校畜産部牛プロジェクトは毎日の搾乳、除糞、給飼などの管理を行なう。加えて熱心に取り組んでいるのが共進会。毎年経産牛・未経産牛を出品し数多くの賞を受賞してきた。ほかにも生徒達が主体となり地域の住民と交流を深める酪農教育ファームや、プロジェクト学習を積極的に行なっている。
担当教諭: 佐々木 真彩先生

酪農に憧れや興味を抱き、実践をととして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.10

神奈川県立相原高等学校



近隣の酪農家との関わりも大切にしています。実習や共進会に協力してもらい、共進会では酪農家さんの牛でリードマンとして参加するなどしています。



畜産科に入学したからには、部活もそれに関わることをしようと決意して牛プロに入部しました。まだ牛の知識があまりないので、トラブルが発生したときに先輩の力を借りないと対応できません。3年生になったときには、後輩に適切な指示ができるよう日々勉強していきたいです。(1年生、上村 拓也さん)



大きくてカッコいい牛に憧れて牛プロを選びました。副部長として部員達に作業の指示を出したりするのは大変ですが、とてもやりがいを感じています。将来は削蹄師や人工授精師など、牛と直接的に関われる仕事に就きたいです。定期的に削蹄師さんや人工授精師さんが来てくれるので今からどんどん吸収していきたいです。(3年生、副部長・下鳥 友佑さん)



小さい頃から動物が好きで相原高校を選びました。牛プロを選んだ理由は家の近所に酪農家さんが多くいたこともありますが、牛と直接関わりたかったからです。早産のとき牛の変化に気づけなかったことがあり、それ以降、小さな変化にも気がつけるよう注意して活動しています。将来は動物の繁殖関係の仕事に就きたいです。(2年生、堀内 桐子さん)



相原高校で命の大切さを学びました。初めて経験した子牛の出荷は非常に辛く忘れません。産業動物だからと出荷に慣れないようにしたいです。今後は相原高校と畜産との関わりを地域の方々だけでなく、より多くの方に知っていただきたいです。将来は保育園などで子ども達に食育を教えるのが夢です。(2年生、齋藤 香穂さん)

学生牛部は今!